

2021年4月における非住宅建築物に関する省エネルギー基準に準拠したプログラムの変更概要

評価方法を次の通り変更しました。令和2年10月1日時点における Ver.2.9.1 からの主な変更点は次に示すとおりです。

<全般>

- 1) 外皮性能について、同一方位に複数の窓がある場合の評価法調整

<エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）>

- 2) 空気調和設備について、地中熱ヒートポンプ（オープンループ方式）の評価ロジックを追加。
- 3) 空気調和設備について、蓄熱槽を有する熱源群を排熱利用冷熱源とした場合にエラーになる問題を修正。
- 4) 空気調和設備について、蓄熱槽を有する熱源群に追掛用の熱源が入力されていない場合はエラーとなるように変更（少なくとも放熱用の熱交換器は必ず入力する必要があります）。
- 5) コージェネレーション設備の計算ロジックを変更（コージェネレーション設備が稼働する条件等を調整）。
- 6) 計算と様式出力の際に進捗状況を表示する機能を追加。
- 7) 空気調和設備の計算結果の表示画面及び様式出力に記載されている「液化石油ガス（LPG）消費量」の単位を修正（L と記されていたが、正しくは kg）。
- 8) 空気調和設備において、二次ポンプ群の流量制御の省エネルギー効果が適切に計算されない場合がある問題を解消。
- 9) その他微調整。

<モデル建物法入力支援ツール>

- 10) コージェネレーション設備の評価を追加。
- 11) 複数用途集計機能へコージェネレーション設備の評価を追加。
- 12) 様式出力 PDF に印字されている QR コードの調整（その他一次エネルギー消費量等）。
- 13) その他微調整。

なお、現在公開している「エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）Ver. 1.12.1」、「エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）Ver. 2.9.2」「モデル建物法入力支援ツール Ver. 1.3.0」、「モデル建物法入力支援ツール Ver. 2.9.1」は令和3年9月30日をもって公開を停止する予定です。詳しくは、プログラムの使用については国交省のホームページをご確認ください。

- 各制度における計算支援プログラム等の扱い（R3年4月以降） <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/content/001364799.pdf>

以 上